

## 愛宕山(矢走)

矢走という地名は、矢を作っていたところとしての矢倉(やあせ)から来ており、しかもこの地が、しばしば戦場になって矢が走るといふ意味から、矢走(やばせ)になったといわれている。戦場であった名残りとして、今も小字に「まどば」しんがいくぼ、ばばさん、もんのした、なまやしきなどというのが残っている。

矢走にある愛宕山には、南北朝時代には城が築かれており、とくにここには、金剛山にあがったのろしき、吉野に伝える中継地点として、大きな役割をはたしていたといわれている。

現在その山頂のところを、てんじゅかくと呼ぶが、一段低いところをたいらといいつつ、そこが屋敷跡だといわれている。

その山頂には、杉、松、藤などが生いじげっていて地蔵さんのちいさなほくらがまじわられており、地蔵盆にはいてないなあまつりをして、村の人たちから敬信をされている。

